豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会　R８（２０２６）.6.１２　　No.4
豊岡市のホームページにもアップしています。
豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

豊岡市第１回小中一貫教育推進協議会より～今年度の方向性～

１ 重要な3つのポイント

⑴ 兵庫教育大学の安藤准教授が座長に就任し、より新たな視点を導入。

⑵ 校区の独自性の重視：各校区の子どもの状況に応じ、各一貫ブロックの会議で柔軟に評価・検証を行う体制の構築。

⑶ ふるさと教育・探究的な学びの充実：ふるさとを「自分事」として捉える学びを推進。義務教育学校「竹野学園」の独自教科（たけの未来づくり科）を参考に。

２ 講義 「授業でつながり、地域とともにある小中一貫教育の充実」兵庫教育大学　安藤　福光　准教授

⑴ 一番伝えたいこと

これからの教育は、全国一律の同じ教育ではなく、学校と地域が連携し、小中９年間のつながりの中で地域に最適な特色ある教育を自律的に創り出すこと。そして、地域全体で「15 歳の理想の卒業姿」を思い描きながら、子ども一人ひとりを育むことです。

⑵ 知ってほしい3つのポイント

① 「あれもこれも」ではなく、学びの「本質」を大切に

学校には日々、新しい学習や行事などたくさんの課題が入ってきます。しかし、多くの課題を詰め込んで疲弊するのを防ぐため、各活動の「そもそも、何のためにこれを行うのか？」という根本的な目的（本質）を掘り下げることが大切です。目的を明確にすることで、子どもたちにとって本当に意味のある、質の高い学びに絞り込んでいきます。

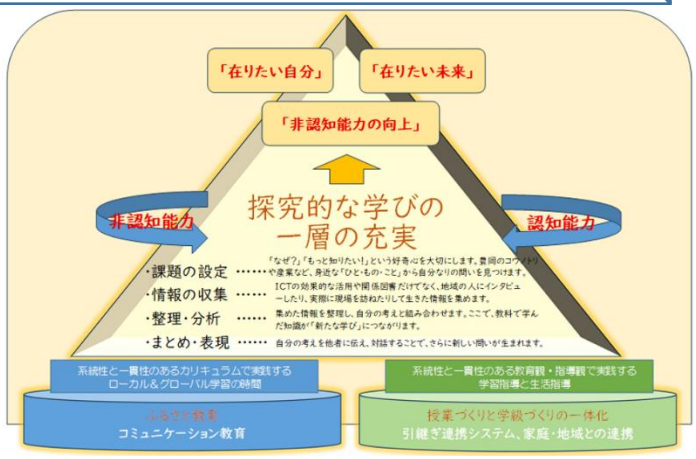
② 小・中の先生が「ひとつのチーム」になり、壁をなくす

これまでは「小学校の先生」「中学校の先生」で分かれがちだった意識を改革します。

「同じ校区の先生」へ：「〇〇中学校区の義務教育を一緒に担う仲間」として、共通の教育観や 学校文化をつくっていきます。教科書や授業の共有：小中の先生がお互いの教科書を読み合い、授業を相互に参観します。「小学校で何を学んできたか」「中学校でどう成長しているか」を先生たちが自分の目で確かめ、９年間のスムーズな学びのバトンタッチ（系統性）を実現します。対話の充実：それぞれの「当たり前」の違いを認め合い、オンラインなども活用して、生徒の情報や指導法の意見交換をこまめに行います。

③ 「中１ギャップ」の解消と、新たな課題（副作用）への目配り

中学校進学時の環境の変化による戸惑い（中１ギャップ）を減らすため、小学校高学年での「教科担任制」の導入や、学年の区切り方（４年・３年・２年など）の工夫、小中合同の行事などが検討・実践されています。中１ギャップ対策による「小５ギャップ」等の新たな歪みがないか検証が必要です。テストの数値だけで判断せず、「子どもたちが日々楽しく充実した学校生活を送れているか」という児童生徒目線を最優先します。

小中一貫教育の充実に向けて

安藤先生の講義いただきましたように、小中一貫教育の本当のゴールは、制度を変えることではなく、「子どもたちが９年間、安心して自分らしく学び、愛着のあるこの地域から未来へ羽ばたけること」です。「在りたい自分」と「在りたい未来」を創造する力です。環境の変化に少しずつ慣れていく時期だからこそ、学校と家庭、そして地域がしっかりと手を携え、子どもたちの成長を温かく支えていきましょう。